

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：053.外国語教育学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。

ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

<解答する設問と配点について>

(1) 設問は I から VII まであります。

どの受験者も、I と II 両方の設問に解答しなさい。次に、

a. 「外国語教育論」（ピーターソン、中森研究室）の受験者は、III と IV 両方の設問に解答しなさい。

b. 「言語教育研究開発論」（柳瀬、塚原、柿原、ダルスキー、金丸、笹尾、和泉研究室）の受験者は、V から VII の 3 問のうちから 2 問を選択して解答しなさい。

(2) 配点は、どの設問も 75 点ずつ、計 300 点満点です。

<解答言語について>

設問は英語と日本語で出題されていますが、以下に留意してください。

(1) a. 「外国語教育論」の受験者は、I から IV 全ての設問に英語で解答しなさい。

(2) b. 「言語教育研究開発論」を志望し、英語教育学を専攻する受験者は、全ての設問に英語で解答しなさい。

それ以外の受験者は、日本語か英語のいずれかで解答しなさい。

<解答の仕方について>

(1) 論述に必要な用語は、明示的に定義して使いなさい。

(2) 論述に必要な理由と例は、具体的に示しなさい。

(3) 論述に必要な観点や限定条件などは、個々の設問で指定がない限り、自分で設定しなさい。

(4) 各問題をどのように限定するか広げるか、すなわち何を重要としているかも評価の対象にします。

定義の仕方や論証の仕方も評価の対象にします。

(5) 是か非か、あるいは必要か否かを論じる設問では、どちらの立場をとるかは評価の対象にしません。

(6) 解答は、設問ごとに別々の解答用紙を使い、設問ごとに表と裏を合わせて 2 ページ以内で完結させなさい。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：053.外国語教育学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。

ただし、設問の中で解答用紙に関して別途指定がある場合は、それに従うこと。

<共通問題> 全ての受験者は、設問 I と設問 II に答えなさい。

設問 I

Explain why the integration of theory and practice is challenging in foreign language education.

設問 II

「外国語学習では、なるべく第一言語の介在をなくし、目標言語（target language）だけを使って学ぶべきである」という考え方について、あなたの考えを述べなさい。

<選択問題>

a. 「外国語教育論」の受験者は、設問 III と設問 IV に答えなさい。

設問 III

Describe some of the ways computer technologies can be used to assist language learners in improving their L2 speaking.

設問 IV

統合型技能（integrated skills）とは何かを説明し、その学習意義と、学習指導上の留意点について述べなさい。

b. 「言語教育研究開発論」の受験者は、設問 V から設問 VII のうち、2 問を選択して答えなさい。

設問 V

Cite examples and discuss the advantages and disadvantages of introducing English language education during the pre-school period.

設問 VI

外国語教育研究の縦断研究（longitudinal research）において生じる「脱落バイアス」（attrition bias）が研究結果の妥当性に与える影響について述べなさい。

設問 VII

内向的な学習者が社会的ストラテジー（質問・協力・共感等）を効果的に活用できるようになるための方法について述べなさい。